

平成30年度 自己点検・自己評価

1. 教育理念・教育目標

<p>《教育理念》</p> <p>一人ひとりの幼児が、夫々の発達課題に則して、自己の能力を十分に生かし、価値のある人生を送ることができるように、神を敬い、他の人々と親しみ合い、身近な自然に対する豊かな感性を磨くよう、指導と援助を与えて、幼児の健全な園生活を図る</p> <p>《教育目標》</p> <p>明るく逞しく、心豊かで、調和のとれた円満な人間性の基礎を育む</p>
--

園の教育理念・教育方針の理解	○園の創立理念・建学の精神にあるキリスト教理念を理解している	79→79→78
	○カトリック園としての教育方針に共感している	100→100→100
	○園の方針、園長の考えについて園長や教職員と話し合っている	75→87→85
	○園の目指す幼児の姿を具体的にイメージできる	83→87→89
	○教育目標が現代社会の要請や必要に応える内容となるよう努力している	67→70→74
幼稚園教育要領の理解	○幼稚園教育要領を理解し、生かしている	67→66→63
	○幼稚園教育要領について、園長や教職員と話し合っている	54→62→59
	○幼稚園教育要領について、幼児の姿や環境の構成、教師のかかわりなど具体的な事例を想起できる	71→70→70

2. 年間目標

年少「教師や友だちと親しみ、安心して過ごす」
年中「遊びのなかで自分の思いや考えを出しながら自己発揮する」
年長「自分で考え、自ら正しいことを選択して行動する」

3. 学級経営のためのクラス別自己点検・自己評価

評 価 項 目	達成率
① 子どものことについて常に教師間で話し合い、クラス・学年の枠を超えて情報を共有し、クラスの出来事や保護者からの様々な要望、意見については園長や主任、学年主任等に報告、連絡、相談をしているか。	79→87→93
② 子どもの健康で安全な生活を保障するために、施設・設備等の安全点検・衛生管理を定期的また随時行い取り組んでいるか。	92→83→74
③ 一人ひとりが神に愛されている意識を育て、家庭の事情・国籍・能力などでの差別を植えつけないような配慮がなされているか。	100→95→93
④ 一人ひとりの子どもが、友だちとふれあい、お互いの良さを認め、安定感を持って人間関係が育つような保育がなされているか。	71→79→81
⑤ 子どもや保護者との対応には公平さを欠かないようにし、一人ひとりの子どもの内面をより深く理解するように努めているか。	96→87→81
⑥ 絵本や物語などに親しませ、想像力やことばに対する感覚を大切に育てているか。	88→87→93
⑦ 教師が各々の得意分野の能力を生かし、その育成につとめ、教師間の良さを生かし合って信頼と協力が築かれているか。	83→70→78
⑧ 明るく爽やかに挨拶をこころがけ、正しい日本語・ていねいなことばで語りかけ、相手の話も耳を傾け、最後までしっかりと聞いているか。	79→79→81
⑨ 研修会には自己課題を持って、事前にその内容を確認したり、自分なりの考えをまとめ、保育に生かせるような成果を出しているか。	67→58→59
⑩ 保育の専門知識や技能のほかに、趣味や読書・ボランティア活動等、社会的な環境にも目を向け、人間性の幅を広げる努力をしているか。	71→70→67

4. 重点的に取り組む項目の達成及び取組状況<年少児>

《重点目標》

一人ひとりの個性を大切にし、子ども自らが楽しんで遊べる環境を構成する

評 価 項 目	達成度 (A～D)
① 幼児の話をよく聞いたり、ことばにならない思いやサインを受け止めるようにしている	88→79→03
② 一人ひとりの幼児の思いを把握して寄り添いながらかかわっている	79→79→85
③ 食べ物を大切にし、感謝する心を育てる配慮をしている	83→87→78
④ 幼児のことについて常に教師同士で話し合い、クラス、学年をこえて情報を共有している	88→83→81
⑤ よりより教師をめざすために、自身の保育を反省・評価している	75→83→67
⑥ 幼児のささやかな成長が理解できて、それを喜ぶことができる	92→95→89
⑦ 幼児の発達、育児等について保護者と共通理解を得るよう努力している	75→83→89
⑧ 事故、問題等が起きた場合の園長への報告、保護者への説明、対応を適切に行っている	92→87→81
⑨ さまざまな変化の中で、幼児にとって何が問題であるか、幼稚園としてはそれに対してどのような教育を行わなければならないかについて考えたり学習したりしている	75→62→67

○取り組み状況

- ・保護者との連絡ノートで新しい変化や出来事などを伝えて、うまく共通理解に取り組んでいた。
- ・教師同士で子どもの様子や思ったことを伝えあい、1日に向けて、どのように関わるか確認できていた。

・参観日、音楽会、卒園式など、行事が連続してあり、少しあわただしい日が多くなっていた。また、進級を意識し始めたことで、さまざまな気持ちの変化が見られた。一人ひとりの思いや気持ちの変化を感じ、受け止めたり、話を聞いたりしてきたが、もっとゆっくり、一人ひとりと向き合う時間をとれるよう考えていくべきだったと思う。

・音楽会では、子どもたちにあった曲や楽器を選び、無理なく練習できるよう工夫していた。

・満3歳児の途中入園が多かったが、幼稚園に喜んで登園できるような先生方の日々の工夫と連携が取れていたと思う。

・季節の製作が工夫されていて、製作の技術が上達したと思う。

・支援が必要な子どもに対し、周りの子どもが自然な形で助けようとする姿がみられ、クラス全体の「思いやりの心」が育っているのを感じた。

・戸外遊びの時間も多くなり、子どもが遊びを選べる機会も増え、個性が今まで以上に見えるようになったため、個別の指導がこれまで以上に細くくなされていた。

・特定の子どもの観察することが多くなってしまい、クラス全体を見ることが少なくなってしまった1年だった。簡単なルールのある遊びやゲームをもっと取り入れるべきであったと反省している。

・子どもたちと目が合うと、微笑み合えるような関係を築くことができた。

・身の回りのことも、自分の力で行う様子が見られ、生活習慣の定着を感じた。個から集団への友だちのかかわりが見られ、戸外では友だちと一緒に楽しく遊ぶ様子をよく見るようになった。

・行事に向けての取組や、行事後の課題など、教師同士で話し合ったり、学年で支え合っている様子が伝わってきて、まとまりを感じた。

・一人ひとりのことばや表情、わずかな動きの変化にこめられた意味に気づき、受け止める姿勢で接することを大切にしていた。

・当たり前だと思うことでも、共通理解して、確認し合い、気持ちやことばを掛け合っていく必要性を感じた。

5. 重点的に取り組む項目の達成及び取組状況<年中児>

《重点目標》

さまざまな感情体験をとおして人間関係を育む

評価項目	達成度（A～D）
① 日々の祈りや日々の生活のなかで、神さまを身近に感じ、感謝する心を育んでいる	92→95→96
② 個々の幼児の発達の姿や課題について見とおしをもって計画を立てている	79→70→85
③ 真理に関する感性を育み善悪の判断ができる良心を育てようとしている	92→79→78
④ 幼児どうしのかかわりのなかで、その姿の内にある心の動きについても推察するようにしている	88→79→78
⑤ 幼児をほめたり、励ましたり、めあてを持たせるようなことばがけをしている	92→79→89
⑥ 幼児のささやかな成長が理解できて、それを喜ぶことができる	100→95→100
⑦ 幼児と一緒に生活を創り出すことが楽しい	83→91→85
⑧ 生活や遊びのなかで、頑張ったり、我慢したり等の豊かな心の体験が得られるようにしている	79→75→78
⑨ 絵本や物語を使って、創造力やことばに対する感覚を育てている	83→100→793
⑩ 食事を楽しむことができる配慮や工夫をしている	88→87→81

○取り組み状況

- ・季節の変化や自然の偉大さに気づき、恵みに感謝した環境構成について工夫していた。
- ・教師の顔色を気にせず、おおらかに園生活を楽んでいる様子がうかがえる。
- ・音楽会ではメロディ楽器を増やしたことで、例年とは違った構成になり、各々の楽器の良さが生かされるよう工夫したり、計画を立てたりすることがあった。新しい取組に向けて考えてきたことは良い経験となった。

・1つずつの楽器に時間をかけて取り組めたことで、子どもたちの心のなかに、楽器に対する愛着や演奏することに自信を持つ、もっとやりたいという意欲などが育ち、学年全体で楽しみながら活動することができたと思う。

・子どもどうしがより密にかかわってことばのキャッチボールをしながら遊びを進めている様子を見て成長を感じた。

・1つの目的に向かい、クラス全員で頑張る体験を、音楽会を通して子どもたち自身が理解し、納得し、満喫できていたようだった。

・毎日の当番活動の中で、自分を発表する時間をつくることで目的やねらいを作ることができ、また、友だちや教師から認めてもらうことにもつながり、一緒に成長することができた。

・松永神父様から教えていただいた神さまやイエス様の話をクラスで話し合い、一人ひとりが考える時間を作り、次につなげることができるようになってきた。

・支援が必要な子どもに対して、周りの子どもが発達のおくれなどに気づき始め、疑問に思ったり、不快に感じたりすることが増えてきたため、そのような場面に出会ったときは、お互いの苦手な所や得意な所を話し合ったり、どうやったら嬉しいかなど一緒に考えるようにし、認めあえるなかまづくりを心がけた。

・季節に応じた壁面製作を通して、さまざまな技法を取り入れた製作活動を楽しめている。

・自由遊びの時も、室内の工夫した大型のおもちゃを利用して友だちと遊ぶ姿が見られ、かかわりが広がっていると思われる。

・音楽会の練習に意欲的に取り組めるように練習方法を工夫していた。参観日の予定変更も話し合っって臨機応変に対応できていた。

・行事の練習が続き、不規則なスケジュールが多かったように思うが、一人ひとりの様子をしっかりと把握し、それぞれに合った声掛けや援助をしていくことで、全体的に落ち着いて生活できるように工夫されていた。

・進級することを日々の生活のささいな言動からも伝えていけるように一人ひとりの行動を認めたり、ほめたりして意欲につなげていた。

・自分たちで計画し、準備をして、年少組に披露する姿に成長を感じた。

6. 重点的に取り組む項目の達成及び取組状況<年長児>

《重点目標》

共通の目的に向かって考えを出し合い、達成感や充実感を味わえるよう働きかける

評 価 項 目	達成度 (A～D)
① 神さまの配慮や恵みを伝え、感謝する心を育てようとしている	92→100→96
② 幼児が自ら活動を展開していけるような場や空間の攻勢をしている	58→79→81
③ 個人の発達の特徴、発達の課題に応じて指導している	88→83→81
④ 一人一人が安定感を持ち、友だちと協力したり、思いやったり、助け合って生活できるようにしている	88→75→89
⑤ 絵本や物語を使って、創造力やことばに対する感覚を育てている	92→95→89
⑥ 幼児のささやかな成長が理解できて、それを喜ぶことができる	92→91→100
⑦ 幼児の姿を多面的にとらえることができる	83→79→81
⑧ 善悪の判断、いたわり、思いやりなどの道徳性を培ううえでもモデルとなっている	83→83→85
⑨ 幼児が自ら考えたり工夫したりできるような見守り方をしている	83→83→85

○取り組み状況

- ・下の学年へのお手本となるようことばがけをし、進んで行動できるように取り組んでいたい。
- ・卒園・進学に向け、一人ひとりの気持ちの変化をていねいに受け止め、落ち着いて生活できるようにかかわっていた。
- ・行事の練習では園生活最後の行事ということもあって、すべての行事でそれぞれの力を十分に発揮できるように、一人ひとりの持っている力量を考え、練習から意欲的に取り組めるようにされていた。
- ・書道や俳句など、日本文化に触れる活動を取り入れ、自分の心の内をさまざまな形で表現できることが体験できた。
- ・なわとびカードや良いこと探しでビー玉をためていくことなどで、取組を可視化することは効果的だった。
- ・自由遊びの内容をもっと見直し、広げられそうな部分を工夫して全体の活動の一つとしてつなげられればよかったと思う（製作コーナーの充実など）。
- ・絵本視聴やことば遊びも長く続けられるように考えればよかったと思う。

・川柳を作ることにチャレンジし、参観では保護者に手伝ってもらった姿があったが、1か月後に作ったときには、自らのことばで作れる子どもが増えており、ことばへの興味が広がり、自分の思いをことばで表現できるようになったのだと成長を感じた。

・子どもが悩んでいるとき、すぐに答えをだすのではなく、考える時間を十分にとっていた。自分で考え、行ったことなので、子どもたちも最後まで責任を持ち、やり遂げ、満足できていたようだった。

・小さなトラブルがあっても、子どもどうして話し合ったり、折衷案を出したりして解決しており、成長を感じた。また、自分たちより小さな友だちに対して、優しく関わる姿を何度もみかけ、思いやりの心が育まれていると感じた。

・小学校への期待をふくらませつつ、残り僅かな園生活も楽しく過ごせるよう関わっていた。幼稚園が楽しかったという子どもたちの声も多く聞かれ、充実した園生活であったことが伝わってきた。

・なわとびの回数に目標を立てて取り組んだり、新しい技に挑戦したり、盛んに取り組む子どもたちが多く、達成感を味わっている様子を感じられた。また、音楽会や卒園式の練習のなかでも、力を合わせてやりとげる様子が見られ、そのがんばりが年下の子どもたちへも伝わってきた。年長児にあこがれ、真似をする子どもたちもいた。

・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識した保育がなされ、アプローチカリキュラムが充実しつつある。

・「自分のことをわかってもらえる」「共感してもらえる」という安心感に包まれると、自信をもって園生活を楽しむようになった。

○今後の課題

<年少児>

- ・細かなことに注意力を持ち、ヒヤリ・ハットの状況に陥ることのないように努力する。
- ・基本的生活習慣について、ていねいに「手間と心」をこめて援助する。
- ・目の前の姿ばかりを気にしてしまいがちな視点をいったんゆるめて、長いスパン、広い視野で考える訓練をする。
- ・自らやりたいことを自由に選んで遊べる環境づくりをする。
- ・絵カードを積極的に取り入れ、視覚からの呼びかけの工夫をしていくことや、学年で教師どうしが支え合い、情報交換を行っていくことが引き続き必要である。
- ・クラスの子どもが楽しめるようなルールのある遊びや活動ができるよう、1日の流れや月の予定を見直す必要があると思った。行事の練習や製作は余裕を持って行えるようにし、ゆっくりする時間やみんなで協力したり、競争したりできるような活動を通して、より多様な経験ができるようにしてほしい。
- ・戸外遊びのタイミングや自由遊びの内容を考え直す必要がある。
- ・子ども一人ひとりの成長がみられ、表情も豊かになっている。友だちとのかかわりが持てるよう、遊びのなかで導いていき、集団へ意識が持てるようにしていくと、クラス全体への成長にもつながると思う。
- ・戸外遊びで2・3人が一緒に遊ぶ姿が見られるようになってきている。2・3人のグループがつながっていくと、もっと遊びも広がっていくようなので、友だちに興味を持ち始めたことも含めて、方法を考えていければと思う。
- ・安心して初めての園生活を送れるように、担任教師ができるだけ子どものそばでようすを見守る必要性を感じる。年中・年長の教師は、年少児との交流が少ないので、積極的に情報を公開することで、共通理解を図りたい。
- ・園生活に慣れ、生活リズムをつくっていくことはできたように思うが、動と静のメリハリがうまくつけられず、あわただしく1日を終えてしまう日が増えてしまったので、動と静のバランスを考え、よりけじめのある生活ができるようにしていくべきだった。
- ・さまざまな行事には意欲的に取り組み、楽しく活動する子どもが多かったので、年中児でも新しいことにどんどん挑戦していけるように考えていきたい。
- ・友だちと一緒に過ごす、一緒に遊ぶことの楽しさに気づき、互いに声をかけあい、誘うようになり始

めたので、今後は簡単なルールのある遊びや1つの遊びを皆でつくりあげる楽しさを感じられるようにしていきたい。

・自分の思いを伝えて、教師や友だちとかかわっていくなかで、相手の気持ちにも気づいていけるようになってきた。

<年中児>

・保護者の思い、悩みを十分に聞き、寄り添って解決への道を話し合う。

・子ども中心、子どもの目線、子どもの気持ちになって考えて行動する。

・個から集団への社会性の育ちが見られるので、まわりの子どもたちの良さを認め合い、助け合い、創造力をたかめられるような協同遊びを行ってほしい。

・室内遊びの内容を見直し、環境構成を考える。

・子どもたちの「やりたい」という気持ちを十分受け止めるには、保育内容をもっと余裕を持って変更できるようにするべきだと思った。

・協力しながら1つの作品を作りあげる経験を通して、友だちの気持ちを考える力、自分の意見を伝える力はついてきたように思う。しかし、まだ個人差があり、衝動的に相手を傷つける行動をとってしまう子どももいるので、引き続き、相手を思いやる大切さを伝えていきたい。

・戸外で思い切り遊ぶことを楽しめるようになった分、友だちとのかかわり方や遊びの激しさと危ないと思うことも増えてきたように思う。相手の気持ちや遊び方の工夫など、自分たちで考えられるようになればいいと思う。

・自由な製作活動をすることもあるので、材料コーナーなどを準備すると自由遊びの時に活用し、みんなで取り組む一斉活動にもつながりそうである。

・年少時よりはできることが増えるようにと、一律にレベルをあげてしまいがちなので、負担をかけすぎないように、一人ひとりの能力や思いをていねいにくみとることが大切だと思った。

・話を落ち着いて聞けるようになった。日々の活動をていねいに取り組んでいきたい。

<年長児>

・行事については、子どもの育ちに必要であるかの問い直しを行い、内容の変更、廃止、見直しを検討する。そして時間や気持ちに余裕を持って、心のこもった保育を展開する。

・行事が続くときもあるけれど、日々の活動が充実するような遊びも取り入れ、広がりを持たせてほしい。

・自由遊びで、遊びが発展するには、子どもたちが自由に配置を変えたり、次につながるよう置いておけたりできるよう、スペースを考えてみたらどうか。

・どうしても指示待ちな部分が見られるので、子どもたち自身がどうしたらいいのか考え、行動にうつせるような環境をつくってほしい。

・集団のなかで、協力し合い、お互いに励まし合ったり、助け合ったりする姿がみられ、日常生活において、相手を思いやる気持ちが育ってきており、温かさを感じることができたので、個でも集団でも成長できる保育を続けてほしい。

・それぞれが困難にぶつかったときにどのように解決すればよいかを考えられるようになってきたと思う。友だちにやってもらって嬉しかったことをことばで表すことで、自分自身も進んで役にたとうとする気持ちも見られるようになってきている。小学校では友だちとのかかわりをもっと広げ、興味をもった活動の内容を掘りさげていけるようになってほしい。

・行事がたてこんだ時に、それ以外の活動も充実させるために、長期的な見通しを持って計画を立てたり、保育内容を工夫させる必要があると感じた。